

室戸天然杉群

段ノ谷山

地蔵峠

かつてこの峠には天然の大杉が天に向かって生い茂り、その数は何百本、何千本もあり、千本峠とも呼ばれていた。天保三年(1832)地蔵がまつられてから地蔵峠と呼ばれるようになった。

スマートで男前地蔵

アカガシの広場

野根山街道

四郎ヶ野峠

岩佐の関所

地蔵峠

海が木立ちのすそにちかみえる

庭園みたいな苔おした風景

平成23年に室戸市全体が世界ジオパークとして認定され、このエリアは「大地と生態系と人とのつながりが見られる場所」として注目されている。

百年たってもこの天然杉たちはあんまり姿を変えてもなくて立っているんだらうなあ。百年、わづか三万六千五百日。一日もおそくにはたかない。

33本の天然杉には昭和63年に国有林の職員によって名前が付けられた。

この高い梢のてっぺんまで水も吸い上げ、はこぶ。このでてる不思議だ。

段ノ谷山は真南向きの斜面。林内の照葉樹の葉っぱは日の光をはじいて風が吹くたびにキラキラ光る。まるで、向かい合う太平洋のさざ波を映しているようにも思える。

林内にもシカの食痕が数多くある。シカの大ウサギ、小ウサギもガシガシ樹皮を食べている姿が痛々しい。

この森に残る33本の天然杉たちは神様から与えられた自由に、いい時間を植物として一本一本がのびのびと自分の思うままにこの形を作ってきたんだらうなあということを感じる。自分も、動物として与えられた限られた時間と悔いのないように会いたい人や見たい景色に出会って生きているうちはできるかぎりせままりたいなあと思う。

大迫力!! 天然杉群

何万年前は海の中だった。千百年前(約10万年前)は島だった。死にかかり、ここに暮らす生きものたちは輪廻3回のらせんをめぐりつづけているのかもしれない。

常に変化している自然の中で風景との巡り合いは二度のこと。

天然杉の小道

豊饒な柔杉

やがて土に還る古い切り株をじっと見ていると時間のことや生死のことやいろんな事を考える。

アカガシの葉っぱが深くつまっている

双子二代杉

ハロー杉

この木は?

木の名前を覚える樹木名板も多数。

軌道跡

登山口まで
国道55号より 16.5km
(A) 大瀬 8.6km
(注) ケートあり
ケートより 5.0km

ウンゼンツツジ

サカキ通しのクスノキ

登山口

段ノ谷道

グローブ杉

大地に根を下し屹然として大空に向かい、繁茂している姿は、お前もかくあれと教えてくれる。
(坂村真氏)